



きくのはなつうしん 2月 年少

初めての音楽会、ドキドキする姿もありましたが、指揮の先生を見ながら自信を持って演奏する姿がこよかったですね。ヒロ先生との音楽あそびを通して〈音楽に親しむ〉経験を沢山する事で、普段から楽しんで演奏をする姿がありました。



音楽会で使った楽器の音や持ち方を知って、どの楽器を演奏したいかを自分達で選びました。「おとがかっこいいから」「かわいいかたちだから」と選んだ理由もそれぞれです。演奏をするところを〈アイスクリーム〉〈たきび〉などの言葉に合わせて楽器を鳴らす事や、先生を見てリズムを合わせる事、他の友達が演奏している間は『待つ』という事を取り組みの中で徐々に知ってきました。



お部屋の中ではリズム演奏をしていき、次は学年みんなであつと演奏を取り組みます。今まで演奏しなかった部分『待つ』をほかのクラスが演奏する事に戸惑いを感じる姿もありましたが、あつという間に慣れ、自分の番を待つこと、みんなで〈せーの〉で声を出したり、音を鳴らす事の楽しさを感じられるようになってきたようです。ほかの学年が見学に来てくれた時に“年少さんの演奏どうだった？”と聞いてみると「かっこよかったよ」と言ってもらえて嬉しそうにする姿や自信につながっているように感じました。



また、既製の楽器だけでなく、手作りの楽器を作って遊ぶ経験もしています。これはどんな音が鳴るんだろう？と好奇心を持ちながら棚や缶、箱等様々な物を叩いて音を聞いていました。

そして、先生と一緒に楽器を作り、だれでも演奏ができるように廊下の演奏コーナーに置いて、音楽会で演奏するリズムだけでなく、好きなリズムで演奏をしています。音楽会が近くなるにつれ、同じクラスの友だちだけでなく、他のクラスの友だちも混ざり合い、指揮者も登場して、みんなの前に立ってリズムを伝え先生になり、音楽を通してのごっこ遊びに発展していました。

音楽会が終わって、本番で使った楽器を廊下の共有スペースに出してからは、楽器を並べたり、友だちを誘って演奏ができるように自分達で準備をし、更に【音楽会ごっこ】が活発になっていますよ。



きくのはなつうしん

2月 年中組

宝取りゲーム

運動会や、日々の活動を通して友だちと一緒に取り組む楽しさを知り、ルールのあるゲームにも挑戦しようと11月から宝取りゲームを取り組んできました。

はじめは、カラー積み木のお宝を自分のお家に運ぶ事、置いてあるお宝がなくなったら、相手の家に取りにいったいい事などのルールを経験しながら知っていきます。



ただお宝を運ぶだけでなく「多く取った方が勝ち」という事を知って「どうすればたくさんとれるかな」とみんなで考えていきました。途中で先生も参加しながら気付いてほしいことを実践してみたり、友だちのいいなという姿を伝えて、「ちいさなおたからだったらいっぱいほこべるよ」「おおきいやついっしょにはこんだらいいんちゃう？」と気づきを共有していきました。途中からお宝も変化していき、カラー積み木だけではなくタイヤや長いソフト棒など簡単に運べないものも加わり、更に考えて運ぶ姿も見られます。

取り組みの中で、お宝を運ぶ事だけでなく、「守る」役割がある事にも気が付きました。でも守りに徹するとお宝はどんどん取られてしまう…「じゃあ、取る人と、守る人の人数を一緒にしてみたらどう？」自分で考えてやりたい事、得意な事をやっていきます。話し合の中でも、自分の事だけでなく、友だちの意見を聴こうとする姿が増えたり、話し合いで出てきたことをやってみようと繰り返す中で、自信を付けたり、協力する姿が増えて更に宝取りゲームを楽しむようになってきました。



お宝を何個取ったか数える時は先生と一緒に、1つずつ一緒に声を出しながら数えています。みんなで声を合わせて発表するので、相手の数が分かるまでドキドキ、自分のチームより多いか少ないか、相手の声を聞いて友だちと相談し合う姿もあります。



クラスで相談し作戦を沢山だし、2月にはクラス対抗でも行いました。いつもと違う雰囲気にドキドキする様子がありましたが、始まると自然と一緒にお宝を運んだり、いつもより協力的な姿が見られました。

クラスの友だちを応援することや、「自分の出来る事(得意なこと)」を考えて取り組んだりとこれまでの経験を存分に生かしている姿も多かったです。今回の宝取りゲームは集団活動を楽しむことや、思いを伝え合う事を大切にしながら進めていきました。何度もゲームや話し合いをする中で、自分の思いだけでなく、相手の思いを聞く事も意識できるようになり、「みんなで」の気持ちが強くなり、クラスの結束力が増したように感じます。





きくのはなつうしん 2月 年長

幼稚園生活も残り少なくなってきました。

3学期に入り寒い日が続いていますが、年長組のみんなはげんきいっぱい園庭で遊んでいます。そんな園庭あそびのなかでも今“熱い”2つを紹介します。

『なわとび』

大縄跳びは3学期に入り園庭に出しました。

年少や年中の時にやっていたのを思い出し、「ゆうびん屋さん」などと楽しんでいます。

「ねんちゅうのときは ちょっとしかとべへんかったのに きょう 58 かいとべた」と昨年よりたくさん跳べるようになったことを喜ぶ姿が見られます。

また、8の字跳びにも挑戦していました。

先生に「跳んだら抜けて、こっちに来てまた入る」と教えてもらい、自分たちで地面に『8』の字を描きチャレンジしました。

「これをみんなで順番に飛んでいったら楽しいんだよ」と先生から聞き、

新しい大縄の遊び方を知ったので、まだまだ大縄跳びの熱は冷めそうにないです。



2月に入り、『短縄跳び』も用意しました。

お家などでやったことがあり、すでに上手に跳べる子もいます。

そんなお友だちの姿を見て「わたしも跳べるようになりたい」と黙々と挑戦している子もいます。何回か連続して跳べた時の「できた！みてた？」の表情がとっても素敵です。

跳べたことが自信につながりそのあとも何度も挑戦しています。



短縄跳びは職員室に置いてあるので、「なわとびかしてください」と借りに来て、終わったら自分たちで結んで「ありがとうございました」と返しに来てくれます。

遊んでいる姿だけでなく、こんなところでも年長組らしさを感じます。



『リレー』

運動会でやったリレー。あれから何か月も経ちますが、まだまだリレーは続いています。

運動会前は誰が最後でどこがゴールかわからないエンドレスリレーを楽しんでいましたが、運動会を経験して、他にもたくさんの事を経験して、自分たちでチームを決めたり、コースやゴールを決めたりと、友だちと協力して進めることができます。

バトンはないから「これにしよう」とコップやお皿を使って自分達で考えて遊んでいます。



審判係のお友だちが勝敗の判定をします。「〇〇チームの勝ち！」「いえーい！」となりますがすぐに、「じゃあ、チーム変えてもう1回しよう！」と次の勝負が始まります。勝ち負けをより、友だちとバトンをつないで走ることが楽しい！というような様子が見られます。